



内閣総理大臣賞(2件)

内閣総理大臣賞 「個人・グループ・学校」分野

受賞者名

群馬県立藤岡工業高等学校

取組の実践場所

群馬県藤岡市

受賞テーマ

「藤工環境活動プロジェクト」で取り組む多様な3R活動

1. 取り組みの内容

環境省の一般廃棄物処理実態調査（平成29年度）によると、受賞者の学校が立地する群馬県の1人あたりのごみ排出量は986g、藤岡市は1,158gであり、全国平均の920gと比べて排出量が多い地域となっている。

一方、受賞者の生徒の約50%は地元企業の工場などに就職し（平成30年度実績）、地域の産業や環境を支える人材となっている。このような学校が立地する地域の特性や生徒の実態を踏まえ、同校では生徒が多様な角度から環境活動に取り組みながらごみの分別やリサイクルなど環境に配慮した知識や行動力を養い、就職した企業においても3Rや環境保全に配慮し、地域の環境を支える人材となっていくための活動を10年以上継続している。特に平成28年度からは「藤工環境活動プロジェクト」を開始し、地域との連携や協働をとおして環境活動を広めるために、いろいろな参加形態と多様な環境活動・環境学習をプログラム化することで、特定の分野や環境意識の高い生徒だけでなく、多くの生徒が関わられるようにしている。このような活動を通じて、受賞者が地域の拠点となり、地域の3R推進や環境保全に資する役割も担いはじめている。

2. 具体的取り組み

受賞者は平成28年度から「藤工環境活動プロジェクト」を開始し、授業や課外活動で「いろいろな枠組みを生かした多様な環境活動と環境学習」を展開している。このプロジェクトで3Rに関係した内容は以下のとおりである。

1) 紙の再使用と再資源化の推進

受賞者は環境に関する取り組みを開始した当初から、コピー用紙の裏面を使用するなど、むだなごみの量を継続して削減している。一方、各教室から回収場所に持ち込まれた紙の中には汚れがあるなど、生徒が分別に迷うものがあるため、教職員が立ち会い、手助けをしながら生徒の分別行動の実践力を養っている。このような日々の活動を支えるため、職員会議等で生徒への分別の仕方の伝え方を検討したり、校内に分別しやすいよう分別区分を明示したゴミ箱を設置するなど少しずつ工夫を重ねた結果、生徒の中には環境ラベルを自ら調べたり、クラス内で正しい分別方法を伝えるようになったケースも生まれている。



写真1 教室内で回収したごみの分別

2) 廃食用油を有効活用した廃棄物の削減

平成29年度から、生徒の家庭や教職員、地域の団体等から排出される使用済みの食用油を回収し、市内のバイオマス発電事業者に提供することにより、廃棄物からの熱回収（発電）をとおしてエネルギーの有効利用に寄与している。今までに約160キログラムの油を回収・提供し、これにより約480キロワットアワーの電力を地域で生み出している。提供時には生徒会役員と教員でバイオマス発電設備を見学するなど、廃食油のリサイクルの過程を学び、働く人の工夫や努力を理解するようにしている。本活動開始当初は、エンジンオイルなど食用油以外の油を持ち込む生徒もいたが、校内にわかりやすい掲示物を掲載し、生徒会で回収を当番制にするなどの改善を繰り返した結果、生徒に正しい理解が定着してきている。



写真2 生徒会にて廃食用油を回収

また、廃食用油の回収と提供活動を高校単独で行っているのは県内では同校だけであったため、新聞記事にも取り上げられ、それをきっかけに地域の保育園から廃食用油の提供の申し出があった。また、保育士志望の同校生徒が関係している保育園で廃食用油の処分に困っている話を聞き、同校の活動を紹介したところ、その保育園からも廃食用油を提供されるようになった。このように、同校を拠点に廃食用油の有効活用の輪が少しずつ地域に広がっている。

3) 廃電線を有価物として活用した社会福祉貢献活動

工業高校の電気科では、生徒が受験する電気工事士国家試験の技能試験対策に多くの電線を使用するため、まとまった廃電線が発生している。一般的には廃棄物処理業者に処理を委託するが、受賞者は平成24年度から、この廃電線を障がい者の就労支援事業所に提供し、通所者がそれから銅を取り出してリサイクルすることで、施設の運営費および賃金の一部に充てられるようにしている。また、平成29年度からは国家試験に合格した生徒が施設に出向き、ボランティアとして通所者のリサイクル作業に協力する活動も行っている。このように自分たちが廃棄したものを他者がリサイクルし、収益を得ていることを理解することで、生徒たちはリサイクルが経済価値を産みだしていることも学んでいる。



写真3 廃電線リサイクル作業

4) 環境科目特別学習および環境関連施設の見学と実習の実施

平成28年度から「環境工学基礎」という科目を教育課程に位置づけ、その中で「家庭の省エネルギーと省資源化・廃棄物の削減」をテーマとした特別学習を、1学期に8時間実施している。内容は、地球温暖化・省エネルギー・廃棄物問題についての映像学習、1年間のエネルギーや水道使用量・廃棄物などの調査、およびグループワークによる検討会、発表会で構成されている。また、廃棄物処理施設にて見学や実習（作業員とともにペットボトルや発泡スチロール製食品トレー、ガラスびん、蛍光灯の分別処理、ベッドマットの解体処理など）を通じて、廃棄物処理の方法を体験するとともに、働く人の日々の努力や工夫を知ることにより、なぜごみの正しい分別が大切なのか排出者としての責任を実感し、その気づきが家庭への3R意識の普及・啓発にもつながっている。



写真4 白色トレイリサイクル
処理施設での実習



写真5 ペットボトルリサイクル
処理施設での実習



写真6 ガラスびんリサイクル
処理施設での実習

5) 群馬県環境学習・環境活動講座「ぐんま環境学校（エコカレッジ）」への参加

群馬県庁が開校する「ぐんま環境学校（エコカレッジ）」は、群馬県のごみの現状と対策や環境にやさしい買い物スタイルなど、環境に関する幅広い分野の講義やワークショップ、フィールドワーク等を実施することにより、地域の環境学習や環境活動を自ら進んで取り組むことのできる人材を養成することを目的とされたもので、同校では平成28年度から3年間で14名の生徒が参加し、そのうち11名が「群馬県環境アドバイザー」に登録している。



写真7 ぐんま環境学校（エコカ
レッジ）での3Rワーク
ショップ